



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

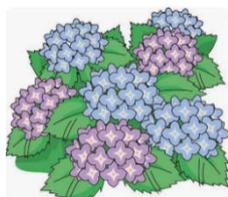
発行2025年6月1日

6月 280号

奈良・人と自然の会



<みんなで仲良く並んでショウガを植えています>



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	私の南米の旅	8
Monthly Repo ならやま	2	終戦直後の北海道の旅-1	9
里山の今 (里山、エコファーム)	3	きょうみ森森	10
里山の今 (虫だより、花だより)	4	ギャラリー	11
自然観察会 (枚岡公園) レポ	5	行事案内、仲間入りしました	12
刈払機講習会レポ	6	幹事会報告、行事予告	13
平城京休耕田草刈りレポ	7		

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

意外と快適だった5月も終わりに近づき、早くも梅雨の便りが届き始め、蒸し暑い日々がやってきた。気象予報では真夏日が増え、熱中症注意を呼び掛ける声が多い。先が思いやられる。

一方、近頃2頭の雄鹿がならやま里山林を住处にしているようだ。威嚇しても姿を消すのはその時だけで毎日のようにBC周辺に現れる。成長しようとする若葉や、夏野菜をはじめせっかくの作物が狙われる。食害対策が大変だ。角が切られた跡があるので奈良公園の鹿だろう。天然記念物である。何とか工夫して共存できればいいのだが・・・。

もうすぐ子供たちを迎えての田植えだ。泥まみれになりながら歓声をあげる姿が目浮かぶ。暑さにも気をつけながら、楽しい農事体験の場にしたいものだ。

植えられた苗への鹿害も心配だ・・・



可愛い花をつけたエゴノキ、秋にはヤマガラが来てくれるかな (第1駐車場 5月13日)

6月の活動特記事項 活動日：5(木)、12(木)、19(木)、26(木)

- 6月5日(木)：佐保台小学校児童による田植え
- 6月12日(木)：協働活動(椎茸榎木本伏せ・天地返し、アダプトプログラム)
- 6月21日(土)：佐保台小課外自然教室 雨天時22日(日)
- 6月26日(木)：春の感謝祭 雨天時7月3日(木)

6月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備、No.19地区(経団連皆伐地)整備(下草刈り、間伐) チッパー処理(機関車広場)、薪棚更新、薪割り
エコファーム	田植え、ジャガイモ収穫、野菜の収穫、ナス・ミニトマトの定植 春の感謝祭の実行、畑の除草、鹿害予防ネットの整備
景観	整備：梅林・BC周辺・第2・3駐車場、杉林、彩の森の草刈り ビオ：西池排水口補修、池・水路の景観保全・整備、タナゴ生育状況定期調査 花：道路沿い花壇の草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路草刈り・整備、保護植物周辺整理、水路橋補修
果樹	梅・桑の実・あんず・スモモの収穫、鳥よけネット設置、実りの森除草

活動日：毎週木曜日 9:00~15:00
前日の17時発表の気象庁予報(NHKTV(奈良)19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

4月24日(木) 晴 73名+3名+近大生3名

3年前に植樹した藤の花が咲いた。奈良県から課長以下3名が視察のため来訪された。

里山GはNo.20地区の里山林内整備、No.19の下草刈り、薪棚の新設、薪割り。エコGは黒米の粃播き、きゅうり苗植え、レタスなどの収穫。景観Gは彩の森の草刈り、筍堀りなど。花班は花壇の草引きなど。ビオ班は近大生による田貝の定期調査、ザリガニ駆除。パトロールGは観察路1コースのパトロール、観察路整備、



水路橋の付け替えなど。果樹Gは新田先生の果樹の講習会、コンニャク芋の植え付け、コゴミ

の収穫。

5月1日(木) 晴 74名+1名

ならやまでの焚火ではプラスチック、ビニール、家庭ごみなどを燃やさないよう徹底。5月24日の総会と6月の月例研修会を案内する。塩本さんの紹介で桜井の森本さんが来訪、きゅうりの奈良漬、ホップの苗木などをいただいた。アダプトプログラムでBC周辺のゴミ拾いを行う。

里山GはNo.19地区の部分皆伐地の下草刈り、実りの森の松の伐採、薪棚新設、薪割り。エコGは防草シート、鹿害予防ネットの整備、夏野菜の準備、小松菜などの収穫。景観Gはアダプトプログラムの実施とBC周辺の草刈り、休耕畑の草刈り、平城京休耕田の草刈りの準備。花班はアジサイ園周辺の草引きなど。ビオ班はザリガニ駆除、ビオエリア西池の草刈り、水路

の整備。パトロールGは観察路2コースのパトロール、タラヨウ保護柵作り、階段修理など。果樹Gはコンニャク芋の植付け、コゴミの収穫、里山Gの協力で松の伐採、牛糞の受け入れなど。

5月8日(木) 晴 70名

景観Gが中心となり、有志19名が協働して平城京休耕田の草刈りを行い、13時過ぎに終了した。

里山Gは薪棚の新設作業、薪割り、彩の森の枯損木の伐倒と枝葉処理など。エコGはサツマイモ苗の植え付け、水田に育苗箱を移動、スナックエンドウ、そら豆など収穫。景観Gは平城京休耕田の草刈り、BC周辺の草刈りなど。花班はアジサイ園の草引き。ビオ班は平城京休耕田の草刈り、水路の補修など。パトロールGは観察路3コースのパトロール、タラヨウ保護柵作りなど。果樹Gはキウイの鹿よけ対策、植村牧場から牛糞の受入れなど。

5月15日(木) 晴 63名

気温が25℃になり水分補給と休憩などの熱中症対策をするよう注意喚起、6月の月例研修会の追加募集を締め切る。



里山Gは経団連皆伐地の整備、間伐、下草刈りなど。エコGはサツマイモのマルチ

留め、夏野菜の移植、玉ねぎなど収穫。景観GはJR線路沿いの三角地の草刈り、蜜蜂巣箱整備。花班はアジサイ園の草引き。ビオ班は新池の排水口修理、ザリガニ駆除、草刈り。パトロールGは観察路1コースのパトロール、アオキの保護柵作り、橋の修理、佐保川小学校の学習支援の準備と草刈り。果樹Gはコゴミ、ウドなど収穫、ミカンの摘果、除草など。

里山グループ

自転車で日本一周

福田 美伸

自転車で日本一周した思い出。大学の友達20人以上の家に泊めてもらった。

大学一年生の夏、東海道を通り和歌山から徳島まで船で行き、四国一周をした。愛媛の九州側はリアス式海岸で大変でした。瀬戸内海側は海が川のように流れているのに驚いた。

二年生の夏、北海道が一番素晴らしかった。東京から東北道を利用。途中寄った岩手県の龍泉洞はあまりにも素晴らしかった。北海道では15日以上雨に降られ、昭和新山では土砂降り。泊まったホテルに強盗が入り、翌日お昼に札幌で犯人が捕まった。一番悔しいのは、屈斜路湖で夕食に行った時、テントに置いたフィルム入りのカメラを盗まれ、写真が無くなったことでした。でも五稜郭、層雲峡、摩周湖、阿寒湖は素晴らしかった。函館から駒ヶ岳石森町で夕方になり、農家の人と話をしたら家に泊めてもらうことになった。夕食で白いアスパラ、焼酎まで出してもらい、おまけに牛乳風呂に入らせてもらった。また、層雲峡を過ぎて石北峠の中腹でテントを張り寝ようとしていた時、営林署の人が車を止めて「熊に食べられるから」と営林署へ連れてもらい、風呂まで入らせてもらった。

三年生の夏。神戸から船に乗り別府へ。九州一周、道はほとんどがアスファルト舗装されていた。西彼杵半島で夕立になりカーブで滑って転び意識不明で道に倒れていたところに小型トラックが通り、助け起こしてもらい長崎市内まで乗せてもらった。別府から日田、福岡、佐賀、長崎熊本、鹿児島、大分、いろいろなことができました。そして北九州関門橋を渡り下関へ到着。自転車を実家に送った。



エコファームグループ

喜ぶ顔が楽しみです

吉村 さつき

エコの畑にはそれぞれに名前がついています。道路北西より田圃の未来っ子・はぐくみ、花野果、常盤、四季（旧早川畑）南西より南1・2・3・4、天の川となっています。

今年は四季でサツマイモを作ります。畑の準備で石ころ拾いをしました。一つずつ拾う者、ふるいを使う者、工夫をして大きな網を広げ3人がかりで大量除去を狙う者。どこから湧いてくるのだろうと思うほど、取っても取っても取り切れません。

今年は苗づくりにも挑戦です。会員さん提供の芋を畑に植えマルチをかけて芽が出るのを待ちます。5月8日に紅はるかと鳴門金時を500本植えました。



サツマイモはヒルガオ科サツマイモ属の多年生植物です。食用される塊根はでんぷんやビタミン類を豊富に含みます。サツマイモの原産地は中南米で紀元前800~1000年ごろには中央アンデス地域で栽培されていたという説もあるそうです。日本には江戸時代琉球王国を経て薩摩に伝わったと言われています。

エコファームのサツマイモは近隣の子どもたちや他のイベントにも使われ、皆さんに楽しんでもらっています。会員にも何度か焼き芋にして提供しています。おいしい顔は幸せの顔、エコ会員一同嬉しいひと時です。



虫だより

里山の今



花だより

ハチに似せた昆虫たち

菊川 年明

ハチらしい虫が飛んでくるとたいていのはびっくりして身を縮めます。刺されるとたいへん痛い目に遭うからです。刺すのは雌だけです。判別はよほど詳しくないとできません。

ハチではないのにハチに似ていて私たちに驚かせる昆虫を数種ご紹介します。

＊ヒラタアブ

アブという名前がついていますがハエに近い昆虫です。ミツバチによく似ています。下の写真は左ヒラタアブ、右はニホンミツバチです。



＊ヒメアトスカシバ

ガの一種です。大変ハチによく似ています。ハラナガツチバチというグループのハチがいますがそっくりです。下の写真は左ヒメアトスカシバ、右ハラナガツチバチの一種です。



＊オオスカシバ

スズメガというガの一種です。翅に鱗粉がなく飛び方が活発なのでハチと間違われます。



＊ヤマトシリアゲムシ

特殊な部類に属する昆虫です。お尻は巻き上がっていて先端は針のようになっています。頭部も長く突き出ています。お尻や口で刺しそうな不気味な感じです。



クロモジ (黒文字)

桜木 晴代

ならやま里山林の部分皆伐地域の観察路の近くに生えているクロモジの木。少しずつ大きくなっているが、半日陰のためか成長は遅い。



クロモジと聞いて思い浮かべるのは、香りがあり、和菓子のお供の楊枝では？

江戸時代には木の一端を裂いて叩き繊維状にして歯ブラシとして使用したという。

今回、クロモジを取り上げたきっかけは、郵便局の窓口で販売していた「のど飴」の袋のクロモジの文字。「養命酒製造が長年研究してきたクロモジのエキスを配合しました」を目にした事から。



「のど飴」の袋のクロモジの文字。「養命酒製造が長年研究してきたクロモジのエキスを配合しました」を目にした事から。

クロモジ

＊クスノキ科

＊名の由来：樹皮に黒い斑点がある事から

＊クロモジの適応：緊張・冷え・喉の不調・リュウマチ・関節炎・湿疹・いんきんなどの寄生性皮膚炎



里山林のクロモジは、早春に小さな可愛い花を咲かせ、4月のならやま観察会時に

多くの方が目にしたのは。

里山林には2本の大きなアオモジの木もあり、春先に見事な花を咲かせている。

自然観察会・レポ

田代先生と枚岡公園を歩く

山本 美智子

5月19日、観察日和。参加者11人。先生からぎっしり書き込まれた資料をいただき、観察心得、「見る→わかる→楽しい」のお話を胸に出発。

いつものように、わかり易く丁寧な先生の説明による観察植物と観察の視点を列挙してみた。

ヤマアイ（染料）、ネズミモチ（葉序）、エノキの実、シラン（花粉の運び方）、シャガ・アヤメ科（花と葉）、カシ類（花・花柱）、ヤブガラシ（ツルの出方・反転）、バショウ（葉だたみ・茎は？）、ミョウガ・ヤブミョウガ（区別）、コクサギ（葉序・におい）、クサギ（葉柄の長さの違い・におい）、ヒナキキョウソウ・ナガミヒナゲシ（蒴果の穴・隙間）、イヌノフグリとオオイヌノフグリ（違い）、ネジキ・アセビ（種子散布の技）花外蜜腺（何処？虫と共存）サンシュユ（ラセン形の維管束・掃除機のホース）、イヌビワ（毒を避けるイシガケチョウ）、アリ（共存と散布）、葉だたみ（たたみ方）

先生がヤモリがおるかもと地蔵仏の涎掛けをめくると・・・いました！ 餌のやってくるのを待っていたのか？ 他所では殻に残る成長線で年齢？がわかるというクチベニマイマイも。

ひと駅、電車移動して、在来種のイヌノフグリに初対面。小さな可愛い植物でびっくり。見つけにくい植物になっているとの事。（絶滅危惧種になってしまわないか心配）オオイヌノフグリの方は大きく丈夫で繁茂し、どこでもみられ、お馴染みである。

以上、ドラえもんのポケットのようなカバンから取り出される、手作りの資料を示しながらのわかりやすい説明。説明を元に対象の植物をルーペでよく見て、楽しく観察できました。動けぬ植物の自然への対応や変化、生きるための

工夫や進化に驚嘆。

植物の不思議や驚き、感動は子どもに戻ったようにワクワクして、嬉しいひと時。

午後から生駒トンネルと日下新池へ。まず、トンネル見学。旧トンネルに向かう軌道跡があり、駅のホームの名残も。子どものころ、母と弟と電車で通った思い出のトンネルだ。

新トンネルは、1964年（昭和39年）開通。大阪側トンネル入り口上にはトンネルの名称ではなく、「日々新」佐伯勇（当時の近鉄の社長）の標識があった。奈良側には「又日新」佐伯勇とあるそうです。

最後に向かったのは、日下新池。先生の資料の写真からは、大正時代、この池にボートが浮かび、池の東側には旅館が並び、遊園地もあり、大歓楽街として賑わったと推察することができる。当時この健康道場にいた木村庄助さんの日記をもとに、太宰治が「パンドラの函」という小説を書いた。

現在は当時の面影はなく、灌漑用のため池となっている。池の西側に桜の並木があり、花の季節は美しいと思われる。入口付近にはヒトモトススキ由来の碑があり、西側は見晴らしよく、大阪の街が一望できる。奈良時代はこの高台の断層の下まで海であったという。海岸植物と言われる自生のヒトモトススキが発見され、東大阪市指定重要文化財に指定。しかし、ヒトモトススキは風で種子が運ばれてゆくので、古い時代からこの地に自生していた、とすることに先生は疑問があると。ヒトモトススキはカヤツリグサ科であり、近くに生える白く枯れた巨大な植物はイネ科のヨシススキで外来植物である。

終了時、先生から「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを愉快地、愉快だが真面目に。基本の心得からもうちょっとよく見る。更に見る。発見が多くなる」というお言葉をいただいた。

これからは、心して観察に臨みたいと思う。

女性限定刈払機講習会レポ

清原 正彦

4月10日、17日の2日にわたり女性限定の刈払機講習会が開催されました。

刈払機使用者の育成や女性参画の推進を目的に企画したのですが、アンケートで受講理由をきくと、「刈払機が使えたら役に立てるので」と思う気持ちが前からあった」「自分で動かしたかった」「活動に活かしたい」と意欲的な回答をいただきました。

講習は、基礎編、応用編と2回に分けてそれぞれ1時間半ほどで開催。



「一人ひとり丁寧にみてもらいとても分かりやすかった」「誤りをすると『こうなる』と具体例を挙げてくれたのがよかった」「応用編では前回の復習をしてもらってよかった」など、概ね良好な感想をいただいています。

そして、受講生のTさんが、早速平城京跡の草刈りに参加されました。頼もしい限りです。

一度にお教えできる人数には限度がある為、残りの受講の希望者に対しても、また新たな希望者に対しても引き続き開催していきます。

なお、刈払機に限らず、「紐の結び方を知りたい」、「練習会を開いてほしい」との積極的な要望の声をいただいていますので、是非それらの講習も開催していきたいと考えています。

ご期待ください。

講習会に参加して

戸田 博子

講習会が企画されると聞いて、すぐに応募しました。自分で動かしてみたいという単純な動機と、家に刈払機があるのに使う自信がなかったからです。

以前にならやまで刈払機の講習会があり、刈る練習をしましたが、その後使うことはありませんでした。

基礎編において、機械の構造を知るため全て分解し、それぞれの役目を清原さんは説明されました。特にノロノロしていても全部自分でやるのが、私にはとてもよかったです。



参加者のみんなが難しいと感じたのは、エンジンをかけた後、回転数を上げていく操作でした。強くスロットルを回しても、「作業が早く進む訳ではない」「燃料を余分に消費するだけ」「エンジンの回転音を聞く」。これは「大きな声で歌を歌っても人の心に届くわけではない」に通じる気がしました。

機械も生きているから、「上手く使って」と声をあげているのですね。

「上手く使って」と声をあげているのですね。

Tさんのようにまだまだ実戦参加は無理ですが、まずは家の庭で失敗を繰り返しながら慣れていきたいと思っています。



平城京休耕田草刈りレポ2025

越智 健介

5月8日、澄み切った青空のもと、平城京跡「東院庭園」南の休耕田(約5000㎡)で、6回目の草刈り作業に参加しました。早朝は10℃を下回る肌寒さでしたが、日中は20℃を超える暖かさに変わり、草刈りには最適な一日でした。4月に4年ぶりに再入会したばかりの私は、過去の経験をほとんど忘れていて、どこか新鮮な気持ちで臨みました。



朝8時前にベースキャンプに着くと、すでに軽トラック2台への機材

積み込みが始まっていました。以前は軽トラ1台に自走式草刈機1台だけだったのが、今回は自走式草刈機4台と刈払機を積む充実ぶり。機材の進化に驚きつつ、おそらく作業の効率が上がっているのだろーと思いました。



昼前には終わりそうなスピードで草を刈れたのは、これらの機材の充実のおかげだと思います。

参加者は19名で、昨年とほぼ同じ人数。体力勝負かと少し身構えましたが、責任者の内河さんが事前にメールで人員と機材を割り振ってくれていたおかげで、作業はとてもスムーズに始まりました。ただ、私はメールの添付書類を見落としてしまい、周りの方に教えてもらうハプニングもありました。メール本文に一言注意

書きがあると助かるなと思いました。

それぞれの持ち場に分かれ、草刈りがスタート。休憩用のタープテントも設置され、昼食の弁当が楽しみでした。前々日の雨で草地の一部



がぬかるんでいて、自走式草刈機の動きが少し重かったものの、作業は順調に進みました。汗をかくこともなく、心地よい疲れの中で昼食タイムに。皆で囲んだ弁当は、いつも以上に美味しく感じました。

汗をかくこともなく、心地よい疲れの中で昼食タイムに。皆で囲んだ弁当は、いつも以上に美味しく感じました。



昼食前、会長から刈り残しの指摘があったので、食後は全員で丁寧に仕上げ作業を行い、溝の清掃もしました。思いの外早く作業を終えられたのは、皆さんの機材操作の技術が上がっているからかもしれません。

私は自走式草刈機を担当しましたが、現場で機材の不調に気づきました。普段の清掃だけでなく、エンジンや部品のメンテナンスにもっと気を配らなければ、と反省しました。

作業を終え、機材を軽トラに積んで平城京を後にしました。こうしてきれいになった風景を眺めるのは嬉しいものです。



こうしてきれいになった風景を眺めるのは嬉しいものです。

皆さん、お疲れさまでした！ またこれからもこうした活動を通じて平城京跡の美しさを守っていかれたらと思いました。

私の南米の旅

木村 裕

私が初めて赴任、長期滞在したパラグアイは内陸国で海がなく、国全体が平坦で高い山や深い森林もなく、広い牧場とやせこけた牛たち、ニョキニョキと立ち上がっているシロアリの塚、貧相な草が生茂る荒れ地ばかりで、世界遺産となるような古い遺跡や由緒ある建物、自然の造形もなく、観光とはまったく縁がない国でした。それに比べ、周辺国は雄大なアンデス山脈と変化に富んだ海岸を持っていました。それゆえパラグアイ滞在中は毎年1回、周辺の国々へバカンス旅行に行きました。

南米の自然は何処に行っても言い尽くせないほど雄大で素晴らしいものでした。それに比較すると日本の自然風景は小さくまとまっているものの、規模や雄大さでは残念ながら比較にはなりません。

何と言ってもすごいのはアンデス山脈です。日本で一番高い富士山を越える高さ、海拔4000メートルまでへも車で行けることです。この高さまで一気に登ると、もちろん軽い高山病になって足元がふらつきます。ワイフは頭が痛い、気分が悪いなど贅沢なボヤキをつぶやいていました。



しかし、良いことばかりではありません。現地観光では日本語はもちろんのこと、英語もまったく通じないスペイン語の世界です。パラグ

アイに赴任して1年、スペイン語は家庭教師について学んでいたとはいえ、6人からなる日本人プロジェクトに所属し、通訳もいたこともあり、上達度はいまひとつ。

「地球の歩き方」で得た情報を頼りにパラグアイの日系旅行社で足と宿の手配をしてもらい、あとは片言のスペイン語を携えて出たところ勝負の旅でした。現地に着くと真っ先に旅行会社を探して翌日のツアーを確保するようにしたものの、思うようにはゆかず何も予定のないフリーの日や時間が生じました。



当時は現地到着後必ず帰国便のリコンファームをしなければならませんでした。最初に到着した空港ですればよいのですが、利用したのはパラグアイの小さな航空会社ゆえ、そのカウンターがなかなか見つからない、カウンターはあってもスタッフがいないなどでリコンファームができず、滞在したホテルのスタッフに頼んで行うこともしばしば。

朝食はホテルで摂るので問題はなかったのですが、昼食と夕食は現地手配です。メニューはすべてスペイン語で料理の内容がまったく分からず、何を注文してよいのかお手上げ。しかたがないのでマクドナルドの店を探しハンバーガー、あるいは菓子パンで対応せざるをえないことも稀ではありませんでした。

旅行先としてペルーにも行きたかったのですが、数年前にJICAのプロジェクトがゲリラに襲われて全滅した事件があったので、ペルーへの立ち入りは禁止されていました。

終戦直後の北海道の旅-1

菊川 年明

私は大阪市内で生まれました。国民学校（平時の小学校）卒業直前の昭和20年3月13日に米軍機B29による大阪大空襲（焼夷弾爆撃）で罹災。奈良県王寺町の仮住まいに移りました。4月に中学校（旧制）に入学しました。当時の中学校は入学試験があり、2月頃に行われたように記憶していますが、入試当日に中学校に向いたら警戒警報が発令され入試は中止、数日後の入試も警戒警報発令で中止、また数日後の入試も警戒警報発令で中止、結局入試なしで入学が決まりました。それで定員の2倍ほどの人数が入学しましたので、上級生から「無試験組」と呼ばれ続けました。

学校には2年生以上の生徒はみな勤労働員で、軍需工場へ行っていて不在でした。私たち1年生も学校の授業はほとんどなく、初めは家屋疎開（建物の撤去）の手伝い、その後はスコップやつるはしと水道の止水栓を回す道具を持って空襲の焼け跡へ出向き、水道水が出放しになっている所を見付け、止水栓を掘り出して水道水を止める勤労働員に従事しました。

5月の下旬に病氣療養中だった父が亡くなりました。私に兄弟はありませんでしたので、母と私だけの身の上になりました。

6月には奈良県王寺町の仮住まいも米軍艦載機（空母搭載の戦闘機）の機銃掃射によって出火し、2度目の罹災となって全くの無一物になりました。そして8月15日の終戦は厄介になっていた親戚の家で迎えました。

当時は言語に絶する食糧難や生活難で、そのために母は縁故のある北海道の旭川市に移住を考えたようで、その準備のためだったと思うのですが旭川へ行くことになりました。

それは昭和20年の暮れのことでした。終戦

直後のことで国内は未曾有の大混乱の時代でした。当時は100km以遠行き乗車券は、交通事情の悪さから発売制限が行われていました。

乗車券を買いに出かけたのは大晦日ではなかったかと思いますが、徹夜の行列に母と一緒に並んで朝になってやっと乗車券を手にすることができました。夜中に母と交代で行列を離れて駅前の広場に出てみますと、所々で焚き火があり人垣ができていました。火の傍に近づくとおじさんが「10円いるよ、燃やせる物を持ってくればタダだがね」と言いましたので、火の傍を離れました。昼間は闇市になっているところでした。後で聞くと「ぬくもりや」という商売だということでした。

昭和21年の1月2日の朝、大阪駅から青森行きに乗りました。青森直行の列車は1日に1本だけです。殺人的混雑でしたから、乗ったというよりもやっと乗れたという状態です。発車は確か、午前8時頃だったと思います。客車の窓は4分の1くらいが割れていて板を打ちつけ



当時走っていた蒸気機関車

てありました。座席は3人掛でしたが、通路も乗降デッキも洗面所もトイレも人・人・人、荷物・荷物・荷物でぎっしり詰まっています。出入りには窓を利用していました。それに朝鮮半島へ帰国

する人たちが集団で乗っていて「オレたちは敗戦国人ではない」と言って横柄に振る舞っていました。この状態は1日中続きましたが、ほぼ1昼夜が経った頃から、かろうじて乗降口から乗り降りができるようになりました。この当時の北陸線は米原経由でしたが、米原から先はずっと豪雪でした。今考えると鉄道の保線は大変だったろうと思います。

(つづく)

きょうみ 森森

このコーナーは、会員の紹介をいたします。
 仲間の新たな魅力をお伝えするものです。

今回は、吉村 さつき さん (2003年入会)

苦手なもの。小1の頃、川に細い板を通して冒険ごっこをしていて、やっと渡ったと思ったら、とぐろを巻いたヘビがそこに。前にも後ろにも行けず、泣き出してもみんな逃げて、だれも助けに来てくれませんでした。

ペットとの思い出。転勤直後お隣の家の建て替えの間、犬を預かることに。雑種犬の「花ちゃん」。はじめは少し不安そうでしたが、すっかり我が家の一員となりました。雷を怖がりましたが、甘えん坊の可愛い子でした。

思い出に残る音楽は、ウエーバーの「野辺に咲くバラ」。高校に入学してすぐの音楽の授業で名前を呼ばれ、みんなの前で歌うことに。ただただびっくり。名簿の「さつき」が目立ったのかな。

息子が赤ちゃんのときに頂いたお年玉の100円札一枚。明治10年生まれひいばあちゃんにとっては大金だったのかな。今も大切に残しています。



琵琶湖の夕焼け

夕日に映える琵琶湖は美しく、感動的。私の心に残る景色です。



さつまいもを掘りあげたときのこの表情がお人柄を物語っているようですね。

いつも明るく親しげに仲間と接する吉村さつきさん。

今後、88歳、85歳、82歳の姉兄のようにやりたいことは何でも挑戦したいとか。また、できなくなったことは嘆かずに受け入れていきたいとのこと。そして、人の役にも立ちたいと前向きです。

心に残る映画は、「じゃじゃ馬慣らし」。シェイクスピアの同名喜劇を映画化した作品。二人で観に行きました。その相手が後の夫。あれから55年、今では私がすっかり慣らされたようです。

人生に影響を与えてくれた手芸屋さんに出会いました。「手芸は好き？」と聞かれて「はい」と答えると、「家にいらっしやい」と言われそのままお供しました。洋裁、和裁、編み物、お茶、お花、料理、卓球すべての先生でした。映画や歌舞伎もよく連れて行ってくださいました。お土産は、いつもお庭の花か手作りのお菓子でした。

毎朝、朝顔の数を数えると120くらいは咲きます。「きれいに咲いてくれてありがとう」と声をかけ一日が始まります。唯一、夫が種まきをする私の好きな花です。

人生最期の食事は炊き立てホカホカのご飯に明太子かシラスをお供に。



吉村さんが好きな水色の朝顔の花言葉
 「固い絆」
 「結束」



Gallery ならやま



陶芸 ミケ猫 小島 武雄



陶芸 小鉢 桜木 晴代



園芸 コチョウラン 坂東 久平



パステル画 中秋のカシワバアジサイ
有元 康人 於：岩村城下町

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

行事案内



仲間入りしました

野原 純子

春の感謝祭（じゃがいも祭り）

日時：6月26日（木）12時より

予備日7月3日（木）

メニュー：ご飯（白ご飯と黒米入り）

カレー（ルーカレーとスパイシーカレー） サラダ

（お願い）カレー用お皿とスプーン、サラダ用のお皿をご持参ください。

感謝祭は農作物が無事に収穫できたことへの感謝を表すための行事です。感謝祭は、日頃の感謝を表すため感謝の気持ちを、会員みんなが分かち合う機会でもあります。

さて、今年も恒例の「春の感謝祭（じゃがいも祭り）」を上記の要領で開催します。

ならやま産のじゃがいも、たまねぎと実りの森で栽培しているウコンで出来たターメリックの入ったカレーです。そして新鮮な野菜を味わってください。また、ご飯は定番になっているならやま有機栽培で収穫した黒米入りを用意します。黒米に含まれるアントシアニンは美肌や美髪を作り出す美容効果や、視力を回復する効果があるといわれています。どうぞ十分にご賞味をしてください。

又、食材の買い出し、調理、釜の準備、飯炊き、大鍋でのカレー作り、配膳などに協働作業として参加していただき、みんなで楽しみたいと思います。

会員皆さまの参加をお待ちしています。



～風の音、小鳥の囀り、集う人々～
奈良 人と自然の会は、すごいです。

命のキーワード！！

はじめまして、野原純子と申します。

4月に入会させていただき爽やかな新緑の季節となり、豊かな実りと収穫物に長蛇の列！お祭りを感じました。

これからどんな新しい展開になるか、ドキドキしながらの毎日に目を覚ましております。活動には、いろいろなグループがあり何もかもが珍しく、大阪の街で生まれ育った私にとって山里のこの環境は、まさしく新たな感動です。自然とふれあい親しめる機会となりそうです。「ならの桃源郷ここにあり」このこと自体が目からうろこでした。

先祖は吉野、御杖にも遠い親戚があると、話は母から聞いていましたが、一度だけ訪ね疎遠で実際、私は田舎を知りません。また、数年前友人に東吉野村に連れて行ってもらい、ヨモギやシイタケを初めて現場に訪ねて知り、奈良は森林が多いことについても少し学びました。奈良は実に美しくゆったりとして別格の日本のふる里だなあと深まる感動を探求してまいりましたが、いよいよ終の棲家として奈良市内に移住してきたのが30年前。阪神大震災の年、法連町の自宅は建築が始まったばかりで未だ鉄骨の状態で被害はなかったが、未曾有の災害にその恐ろしさを知り、子育てもいつの間にか終え奈良にはまりながら当会に辿り着きました。

いつ、どこで何があるか未来は計り知れませんが、日本-奈良の歴史文化に抱かれながら日々報恩を感じ助け合いの心をもって共成していければ幸いに存じます。この機会を賜り感謝申し上げます。



2025年5月度 幹事会報告

開催日：4月26日



ネットで面白いものを見つけた。紀元前1万年から2100年までの国別人口の推移を上位

I. 会計・総務より

- ・3月31日付にてならやま使用地域の変更について奈良県と変更協定書を交わした。
- ・会員動向：会員数130名(家族会員13名)
- ・会計：収支報告(チップパー機の修理費増加)

II. 活動・行事に関する議題・懸案・確認

1. 3ヶ月活動スケジュール検討・確認

- ・佐保川小学校学習支援(5/30)
- ・佐保台小学校の田植えは再確認(6/5予定)
- ・佐保台小学校放課後自然教室(6/21)

2. ならやまプロジェクト関係

- ・女性会員向け草刈機講習会実施済、2回目実施予定(5/15、5/29)
- ・ロープの結び方の講習を検討する。
- ・チェーンソーの講習希望もあるが安全面のリスクがあり必要性を含め慎重に検討する。

3. 2025年度イベント計画

- ・山の日川の日(里山で遊ぼう)(7/12)のイベント企画提出済(募集50名、内容は飯盒炊爨と里山遊び、予備日(13日))
- ・平城京休耕田の草刈り(5/8)

III. 助成金関係

- ・進捗状況、申請状況を確認

IV. 特定議題

- ・総会資料については原案了承

V. 広報関係

- ・会報誌の編成、執筆者の確認

VI. 報告・連絡事項、その他

1. 6/10月例研修会(伏見)募集20名
2. 5/19自然教室 枚岡/石切方面
3. 5/30佐保川小学校学習支援
4. 6/21佐保台小学校自然環境教室
5. ボランティアセンターのパネル展に参加
6. 廃材等の焼却について(焚火での焼却は木くず紙くずに限定する)

次回幹事会は5/27(火)中部公民館14:00

16並べていく動画。最近以外の数字はもちろん推定、国は現在の国境に従ったもののよう。

最初期はメキシコが最大で約100万人、ブラジル・中国と続いて、なぜか中南米が多い。そのうちインド・中国が増えてきてBC60世紀ごろトップ2になる。メキシコ・ブラジルは17世紀に一気にランク外に落ちるまで上位を維持し続ける。

紀元前後はイタリアを初めとした地中海周辺の国が並び、ローマ帝国の繁栄ぶりを示している。インドは平均的に人口を増やしていくが、中国は3世紀・8世紀・13世紀に激減、それぞれ漢・唐・宋の帝国の衰退、滅亡時のもよう。

6世紀には約300万人の日本がランクイン。16世紀には2400万人ぐらいで3番目の人口大国になる。その後18世紀にロシアに、19世紀に米国に抜かれる、米国はそのまま3番目の国に伸びていく。19世紀はヨーロッパの国々がランク上位に並ぶ。今、日本は12番目の模様、2044年にランク外になると予想されている。国の盛衰が人口変動にもろに影響がでているのと、日本が意外と人口大国だったということが興味深い。

7月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 7/3 協働活動日
- 7/12 里山で遊ぼう
- (公開イベント) 予備日 7/13

発行：奈良・人と自然の会
 URL : <http://www.naranature.com>
 編集代表 Mail: editor@naranature.com
 編集委員：青木(幸)・尾崎・柴田・千載
 田中(善)・戸田

表紙写真：ショウガさん、大きく育ってね。